



川崎市議会議員

本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 22 (令和元年10月号)

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17

TEL044-742-8072

FAX044-211-1081

ごあいさつ

先月2日から始まった本年の第4回定例会は10月11日に閉会し、平成30年度の決算を中心に審議する「決算議会」が終わります。

さて、先月は台風15号、台風17号と大型台風が立て続けに首都圏を襲いました。特に15号は本市内でも冠水や浸水、倒木、屋根が吹き飛ばされるなどの被害があり、多くのご相談、ご要望を頂いています。危機管理室や地域ケア推進課と連携を取り、被害に遭われた方々の不安、負担の軽減に引き続き取り組んで参ります。



パラムーブメントの推進強化へ！

決算議会では決算審査特別委員会を設置し、分科会方式を用いて前年度の行政と出資法人の事業結果について細かく審議を行います。分科会は普段の常任委員会が基となり、私は文教委員会の副委員長ですので、決算審査特別委員会では文教分科会の所属し質疑を行うとともに、副会長として進行を務めました。

今回は、東京オリンピック・パラリンピックまで一年を切っており、機運の醸成に向けてギアを上げなければならないと考えておりますので、今後の取り組みに生かすべく昨年度の取り組み結果について質問を行いましたので報告致します。

本市は、東京オリンピック・パラリンピックを契機として、川崎の将来・未来に残すべきレガシー（遺産）の形成に向けて、「かわさきパラ

ムーブメント」を推進しています。この「パラムーブメント」は、障害のある人などが生き生きと暮らす上で障壁となっている社会全体の意識や環境のバリアを取り除き、また、新しい技術でこれらの課題に立ち向かうことを「ムーブメント」として展開しており、東京 2020 大会への機運上昇、そして、この概念を令和 6（2024）年の市制 100 周年、さらにその先へとつなげていこうとするものです。

この取り組みの先頭に立っているのが、文教委員会（分科会）が所管する市民文化局です。そこで、昨年度の決算内容を調査したところ、予算額よりも少ない決算額となっており、この不用額発生要因が、レガシー検討会を予定どおりに開催できなかったからとのこと。レガシー検討会はパラムーブメント第 2 期推進ビジョンに基づいた 9 つのレガシーを形成するために関係部署の長がアイデアを出し合い、具体化していくものです。しかし、アイデアの議論の後に各部署での業務に落とし込むことができず、深化を図ることができなかったがために検討会を予定どおりに開催することができなかったとのこと。行政、市民、企業、各種団体が一体となって進めるべき事業にも関わらず、市内の一体感に疑念を抱かざるをえませんでした。本年度は既に昨年度の反省を踏まえ、改善して取り組んでいるとのことですが、開幕まで一年を切っている状況でこのようなことが発覚したことは残念でなりません。

大会期間中、本市内での試合・競技の開催はないものの、開催都市の隣接都市として東京 2020 大会は大きなチャンスです。経済効果や都市ブランド力の向上、文化の醸成にまたとない機会であり、本市の 100 周年以降、まさに「川崎新世紀」の大きな土台になると言っても過言ではありません。引き続き、パラムーブメントはもちろんのこと、東京 2020 大会に関わるさまざまな事業に注目し、成功に向けて取り組んで参ります。